

大田区文化祭「上映の集い」についての さまざまな意見について

2012/11/02 寺田秀司

(1) 240 作品は目標が高すぎたという意見について。

仮に高すぎたとしても、それで一人3分以内と決めた以上、それに向かって全力を上げるべきだった。ところが、募集作品の目標が201(39も少ない)と決まった時点でも対策を取らなかった。結果は200作品の上映にとどまった。

(2) 量より質の方が大切という意見について。

大切なのは会員全員が応募すること。そのためには、成り行き任せにせず、援助が必要な人に対しては早くから援助する。そのことで会の団結が強まる。他人に援助する必要はないとか、良い作品が出来なかったので今回は応募しないとか、写真を動画に変える感動を一人でも多くの区民に普及する「上映の集い」の目的を理解していないことから生まれている。量と質の関係はどちらがより大切かではなく、両方が大切と思う。量の拡大は質の向上を促し、質の向上は量の拡大を求める。両者は互いに影響し合い競合して前進する。量より質の方が大切なのではなく、量と共に質が大切なのだと思う。

(3) 応募したい人が出せばよいので、人数を増やす必要はないという意見について。

①自分が楽しめば良いので、他人に呼び掛ける必要はない。

②良いものが出来なかったので、今回は出したいくない。

③3分以内に訂正するのは面倒だから出すのを止めた。

④恥ずかしいから出さない。などの意見があるというが、これらはいずれも何のために「上映の集い」をやっているかを理解してもらう必要があるのではないか。

「上映の集い」の目的は、写真を動画に変える感動や喜びを一人でも多くの区民に知ってもらうためだと思う。

(4) 7月10日の第一次締切から8月10日の第二次締切の1カ月間は一般区民に呼びかけるための期間だったが、ODVF以外の参加団体は一人も増やすことができなかった。

これは何を意味するか真剣に検討する必要があるのではないのでしょうか？

以上。